

学会記事

2022年度第2回（臨時） 理事会議事録

日時：2022年7月23日（土）11:00-11:50

【WEB会議形式】

出席者：出席理事41名，出席監事2名

・会長1名：岡田 誠
・副会長2名：杉田律子・星 博幸
・常務理事1名：中澤 努
・副常務理事1名：緒方信一
・執行理事11名：保坂（内尾）優子・内野隆之・加藤猛士・亀高正男・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
・理事会議長1名：芦 寿一郎
・理事会副議長1名：小松原純子
・理事23名（議長・副議長を除く）：青矢陸月・天野一男・磯崎行雄・大橋聖和・笠間友博・神谷奈々・亀田 純・本郷（川村）紀子・清川昌一・桑野太輔・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・高野 修・西 弘嗣・細矢卓志・保柳康一・榊原（堀）利栄・松田博貴・三田村宗樹・矢島道子・山路 敦・山本啓司
・監事2名：岩部良子・山本正司
・事務局1名：澤木寿子

欠席者：欠席理事9名

・理事：大友幸子・尾上哲治・狩野彰宏・北村有迅・平出（黒柳）あずみ・菅沼悠介・野田 篤・道林克禎・斎藤 眞
* 成立要件：理事総数50名の過半数26名 本日の出席者41名で本理事会は成立。
* 議決：出席者の過半数21名
* 開催にあたって、笠間友博理事および川村紀子理事を書記に指名した。
* 会長挨拶 地質学会の増員に向けた表明を示された。
* 前回議事録確認

報告事項

1. 行事委員会

・高嶋理事より、2022東京・早稲田大会の準備状況について下記の報告があった。
→口頭296件，ポスター 93件，合計389件の講演申込があった。プログラムは、7月23日の行事委員会で確定する。
→ジュニアセッションは8月1日締め切りで受付中（最終17件で締切）。
→シンポジウムはLOCからの1件と執行理事会からの1件の合計2件開催。
→地質系業界説明会の参加は35社。うち、対面説明会（9月5日，14号館5階）24社。オンライン（9月16日開催）32社。これについて、参加企業も増え大変良い企画であるので、若手への周知が重要との意見があった。広報委員会とも連携して周知、宣伝に努める。また大学の就職担当などにも協力を求めたい。

→新型コロナ感染拡大の状況を鑑み、対面口頭会場への来場が困難になった方に対して、Zoomでの口頭発表（出演）を認める。質疑応答も可能。ただし、ハイブリッド対応ではないため、他者の発表を聴講することはできない。会場でのZoomの操作や希望者との連絡など実施にあたり各世話人に協力を仰ぐ。

→巡検の申込状況：まだ空きがある。8月10日締切

→行政や大学からの中止要請が無い限り、現地（＝早稲田大学）開催を前提として準備を進める。要請が出た場合は、巡検も含め一旦中止せざるを得ない。その後の対応は今後検討する。

2. その他

・IGC37th 2024韓国の巡検協力体制について 磯崎理事より問題の内容やこれまでの交渉の経緯等についての説明があった。竹島巡検や日本海呼称問題について、地質学会だけでなく、国内の他学会および関係機関とも連携して韓国側と複数回話し合いを重ねているが、未だ解決には至っていない。日本側としては容認できない状態のままである。8月初旬にさらに会合開催予定。1stサーキュラーの公開等大会準備状況から鑑みて、8月初旬が最終決着となる見込み。

審議事項

1. 各種委員会メンバーの承認

岡田会長より学会各種委員会メンバー案について説明があった。一部昨年度の委員名が残っていたり、所属先等誤記があったため情報の訂正を行い、賛成多数で承認された。

本件については、ジェンダー・ダイバーシティ委員会から、委員会構成については男女比のバランスを意識してほしいとの要望があり、特に地質学雑誌編集委員に女性が含まれていないことに対する指摘があった。岡田会長、小宮編集委員長より編集委員は、重要かつ大変な任であるため、性別に関係なく委員打診するも、受諾される人は限られている。推薦なども募って今後修正していきたい旨回答があった。

2. 会長代行の順位について

杉田副会長より、会長代行の順位について説明、提案があった。一般社団法人日本地質学会理事会規則第3条第4項に定める通り、理事会においては会長に事故があった場合に備え、継承順位を定めることとなっている。年長の副会長が優先されることとなっているが、該当する杉田は国家公務員であり、法人の代表権を有する会長に就任することは困難と考えられる。よって、理事会において、今期の第一の継承順位は星副会長にあると定みたい。本件について賛成多数で承認された。

3. 広報メディア運用規則（案）提案

内尾理事より標記規則案の提案があった。学会公式の広報メディア（ニュース誌、ホームページ、メルマガおよびSNS）の適切かつ有益な運用のために定める。運用は広報委員

会が担当する。SNSの投稿・編集は、事務局と広報担当執行理事およびSNS 運営委員が担う。SNS運営委員は広報担当執行理事および広報委員会が会員から選定する。規則は賛成多数で承認された。

4. その他

地質学雑誌電子化以降、従来あった編集後記が見受けられないが、雑誌の展望や今後の方針、現状などを会員に明示する文章は必要ではないかとの意見があった。ニュース誌を活用するなどして対応していきたい旨、小宮編集委員長より回答があった。具体的には編集委員会で検討する。

監事報告

1. 岩部監事より

委員会構成にあたり、ジェンダー・ダイバーシティに関わる積極的な意見を聞いて良かった。今後様々な立場の人たちの意見が反映されることを希望している。

2. 山本監事より

広報メディア運用規則は時宜を得た重要な施策であり、今後不測の事態への備えも強化する必要があると思う。精査してほしい。未だコロナ感染拡大の状況にあるが、早稲田大会の無事開催と成功を祈念する。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年8月16日

理事：議長 芦 寿一郎
理事：副議長 小松原純子
代表理事：会長 岡田 誠
理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星 博幸
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名（省略）

2022年度第3回（定例） 理事会議事録

日時：2022年9月10日（土）14:00-16:30

【WEB会議形式】

出席者：出席理事37名，出席監事2名

・会長1名：岡田 誠
・副会長2名：杉田律子・星 博幸
・常務理事1名：中澤 努
・副常務理事1名：緒方信一
・執行理事10名：保坂（内尾）優子・内野隆之・亀高正男・小宮 剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森 樹・松田達生・矢部 淳・山口飛鳥
・理事会議長1名：芦 寿一郎

- ・理事会副議長1名：小松原純子
- ・理事20名（議長・副議長を除く）：青矢睦月・天野一男・磯崎行雄・大橋聖和・狩野彰宏・神谷奈々・北村有迅・本郷（川村）紀子・桑野太輔・斎藤 眞・佐々木和彦・沢田 健・下岡和也・菅沼悠介・高野修・西 弘嗣・野田 篤・保柳康一・矢鳥道子・山路 敦
- ・オブザーバー1名：ウォリス サイモン
- ・監事2名：岩部良子・山本正司
- ・事務局1名：澤木寿子
- 欠席者：欠席理事13名
- ・理事：大友幸子・尾上哲治・笠間友博・加藤猛士・亀田 純・清川昌一・平出（黒柳）あずみ・細矢卓志・榊原（堀）利栄・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・山本啓司
- * 成立要件：理事総数50名の過半数26名 本日の出席者37名で本理事会は成立。
- * 議決：出席者の過半数19名
- * 開催にあたって、北村有迅理事および神谷奈々理事を書記に指名した。
- * 会長挨拶 現地での129年学術大会（以下、早稲田大会）対面企画及び巡検が無事終了したことの報告と週末のポスターセッションへの参加奨励。IGC関連で緊急な議論の必要性が周知された。
- * 前回議事録確認

報告事項

1. 執行理事会報告

- ・中澤常務理事より、執行理事会報告が行われた。新理事に対して執行理事会の役割について、月一回の頻度で執行理事会を開催し、各委員会の取り組み進捗の報告や理事会議題の確認等を行なっている旨、説明があった。ここでは、執行理事会議事録に基づいて理事会で議題・報告事項にならないものを報告するため、今回は特になし。

2. 総務委員会

- ・亀高理事より、公益財団法人山田科学財団2022年度研究援助への地質学会推薦応募1件の不採択、第22回「こどものためのジオ・カーニバル」(11/5-6 於大阪市立自然史博物館)への後援依頼が承認されたことが報告された。また、会員動静について、学術大会に向けて入会者数が増えたこと、8月末会員数が3304人（賛助：27、名誉：39、正会員3238[内 正3117、院割114、学部割7]）(昨年比-52)であることが報告された。
- ・ご逝去された会員（5名）について報告があり、理事会で黙祷を行った。

3. 行事委員会

- ・高嶋理事より、早稲田大会の実施状況について、巡検が一部催行中止になったコースがあったものの、巡検を含め本会報告時点までに終了している大会プログラムは無事完了したと報告があった。口頭発表については、発表297件、Zoom発表8件、みなし発表8件、取消2件となった。明日9月11日

にポスターセッションと地質学露頭紹介が行われる予定と報告があった。

- ・桑野理事より、「学生・若手のための交流会」の開催報告があった。9月4日18:00~19:30に実施し、参加者60名（世話人7名含む）と盛況で、活発な意見交換があり今後の企画も実施に向けて協議を開始した。
 - ・対面会場参加者は約540名（事前参加登録者数563名）であった。コロナ禍以前の参加者数には至っていないが、久しぶりの対面開催には多くの参加者を集めた。
 - ・対面会場参加者から、大会サイト上の講演要旨及び大会プログラムpdfが見つけにくいという苦情が2件あった。本大会では、これまでのシステムと変更点が多かったが、今回の変更に対する反響を調査する必要があることが指摘され、アンケートの実施が予定されているとの回答があった。
 - ・「口頭発表において、どの発表が学生、院生の発表か分からず、隠れてしまっており、学生の参加がよく見えなかった。学生発表賞などの創設を」との意見に、山口理事より「現在、優秀ポスター賞の見直しを進めており、来年度までに対応したい」との回答があった。
 - ・Zoomポスターセッションを時間で打ち切らないよう要望があった。学会は2つのZoomアカウントしか所有しておらず、他の企画にも使用するため時間で終了せざるを得ないとの回答があった。他学会ではアドレスで開けている例もあり、大会専用のアカウントを準備するなどして時間に余裕を持ったZoom開催が要望された。
 - ・坂口理事より、学生のための地質系業界説明会について報告があった。参加・企業団体24、学生参加者数54名（事前申込34+当日20）。16日に実施されるオンライン版は、参加・企業団体32社。14日まで学生の事前参加申込可能であることが周知された。
- ### 4. 地質学雑誌編集委員会
- ・小宮理事から、学術大会に関連した投稿促進策として、セッション発表の中で投稿にふさわしいものがあれば推薦するよう世話人に対して依頼された。各賞の受賞者にも投稿を依頼している旨、状況報告があった。
- ### 5. Island Arc編集委員会
- ・狩野理事から、大会3日目に行った委員会合の報告があった。2-year Impact Factorが2.442と過去最高を記録した。また、競合他誌との比較のグラフから本誌の評価が上昇中であることが示された。国内からの投稿割合が高く、今後国際会議等で特集号を組み国外からの投稿数を伸ばすことが検討されてきたがコロナ禍で難しい状況が続いているとの報告があった。引き続き特集号企画の持ち込みを受け付けている。

6. ジオパーク支援委員会

- ・天野理事より、市民対象オンラインシンポジウム「ジオパーク地域に伝わる伝承と地質学：古代からの自然観を今に活かす(案)」について、JGN、JGASUと共催で来年1月に実施することが8/27の執行理事会で承認されたことが報告された。各地のジオパーク関係者とJGNから9件の発表が予定されている。ZoomによるWeb開催の予定。各地の博物館等をつないだ同時配信なども検討中。
- ・本シンポジウムは、ジオパークのガイド等、関係者を想定していたが、関心のある人が一般の方にも多いので、YouTube Liveなど他のメディアを利用した開催について意見が出され、検討されることになった。
- ・学術会議や国の要請として文理融合を進めていくことが求められているため、シンポジウムにも文系の人を取り込んでいくとよいという意見があった。

7. 表彰制度検討WG

- ・中澤常務理事より各賞の推薦あるいは審査をするにあたって、規則の文章だけでは、それぞれの賞の趣旨、どのような方を推薦すればよいのか、あるいはどのような観点で審査すればよいのかが分かりづらい、との意見があり、それらを補うための説明文を公表することが報告され、説明文案が示された。
- ・説明文中の「若手」「中堅」「ベテラン」は曖昧な表現であり、削除した方がよいとの意見が示された。これに対して、説明文はイメージを伝える文章であり問題ないとされた。
- ・小澤賞、柵山賞の授賞対象が変更（博士号取得から5年以内；実質的には若返り）になったことで、学会外部のより大きな若手研究者向けの賞に申請する上で重要であった賞がなくなってしまうことが懸念されるといふ意見が出された。これについては、そもそも地質学会の賞は外部の賞をもらうためのステップではなく、あくまで学会独自の評価である。また、近年の小澤賞・柵山賞受賞者がハイレベル化・高齢化の傾向があり、それを是正する措置であるとの回答がなされた。
- ・研究奨励賞には、個人を表彰することと、論文投稿を促進することの2つの目的があり整理すべきとの意見が出された。

8. その他（地質情報展の今後の方向性について）

- ・中澤理事より、地質情報展の今後の方向性について提案があった。1997年に開始されこれまで21都市で24回開催されてきた。学術大会と同時開催をしており、開催場所が各支部での開催都市に固定化しているため2回目の開催になるところが増え、開催地に偏りが生じることに対応して、2回目となる時は別都市で開催することが産総研からの提案として示された。地質学会に対

してはこれまで通り共同主催者として、また科研費申請等の協力が依頼された。また、本年度2回目となるが、試行的に岩手県盛岡市で実施する予定であることが報告された(23年3月開催予定。なお今年度2回の実施はコロナ禍で過年度の情報展が中止・延期になったための例外的開催となる)。

- ・学術大会業務の多くを外注にしたことによりLOCは少人数でも大会実施可能となったので、情報展だけでなく学術大会も開催地の分散化を進めていく必要があるという意見があった。
- ・博物館などでは学術的に裏付けのある行事が求められているので、情報展の活動の場を広げることに賛成との意見が出された。博物館等で受け入れる場合に受入れ側の負担には何かあるかという質問に対して、第一には場所の提供であり、スケジュール調整等で協力をお願いしたいとの回答があった。経費負担に関しては、開催地に経費負担をお願いすることはなく、科研費が採択されれば、学会、産総研の負担も小さいとの意見があった。
- ・情報展と同時開催している市民講演会について、現在、市民講演会と情報展をセットにして科研費申請を行っているため、市民講演会の扱いを今後議論する必要がある。過去に市民講演会だけでは科研費採択率が下がったため、情報展と組み合わせる申請するようになった。巡検を組み合わせるなど新しい企画も含めて早急に検討する必要があるが、将来的に情報展、学術大会とも様々な地方での開催が望ましいという意見があった。

審議事項

1. 地学教育委員会メンバーの承認/ダイバーシティ委員会メンバーの承認
 - ・坂口理事から本年度の地学教育委員会の委員構成が示された。坂口有人(委員長)、浅野俊雄、阿部国広、大信田彦磨、高嶋礼詩、廣木義久、星博幸、松永豪、矢島道子、渡来めぐみ、藤原靖;11名)とする案が示され、承認された。
 - ・中澤理事から先の7月理事会で承認された本年度のダイバーシティ委員会の委員構成に加え、委員として武藤俊会員が1名追加する案が示され、承認された。
2. 研究奨励金規則(案)
 - ・内野理事から、寄付金に基づき新設された研究奨励金に関する規則(案)が示された。受給者の所属機関に間接経費を取られないように、奨励金の用途を直接経費に限定することを規則中または誓約書に明記するよう意見があり、対応することが確認され、規則案が承認された。
3. その他(IGC2024韓国大会について)
 - ・IGC2024韓国大会について、日本地質学会の協力に関する件で磯崎理事とウォリス前国際交流委員長から以下の通り経緯の報告

があった。

→2022年7月23日の理事会で現状報告の後、7月29日に韓国側とZoom協議を行い、竹島巡検を実施しないと合意。1週間後に正式な返事を得る予定だったが、その後音沙汰なく、8月に3回催促をし、9月9日に「宮下」会長、IUGS Ludden会長、ウォリス委員長宛に文書が届いた。内容は、竹島巡検は韓国側の事情で中止することを検討(considering)していること、日本海呼称問題は「East Sea/Japan Sea」を使用し、日本側は「Japan Sea/East Sea」を使用すること、であった。合意事項が反故にされ、宛名が14年前の会長になっているなど不誠実である。

→日本海の呼称については、摩擦回避のため国際水路機関(IHO)のコード表記を使用することを日本側から提案していた。本件は文科省、外務省に通知済み。「East Sea」を使用する場合には、産総研やJAMSTECなど国立研究開発法人に所属する者はIGC2024への参加は難しい。

- ・日本地質学会の対応としては、IGC2024へのSupporting Letterを取り下げること、および学会として日本国内での巡検実施には協力しないことが考えられる。
- ・日本地質学会と大韓地質学会との間の学術交流協定(MOU)は、本年10月に失効するが、現状を鑑み、対応を別途検討することにした。
- ・上記の対応が承認された。

監事報告

1. 岩部監事より
IGC2024に関する韓国との問題は非常に重大である。個別の協力依頼があることが想定されるので会員への周知を速やかに行うと良い。
2. 山本監事より
早稲田大会の「学生・若手のための交流会」など、若手の活発な活動が印象的。日本地質学会の将来を見据えた若手のさらなる底上げが重要と感じている。

以上

以上、この議事録が正確であることを証するため、議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する。

2022年10月5日

理事：議長 芦寿一郎
理事：副議長 小松原純子
代表理事：会長 岡田誠
理事：副会長 杉田律子
理事：副会長 星博幸
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名(省略)

2022年度第1回執行理事会議事録

日程：2022年7月9日(土)13:00-16:30

【WEB会議】

出席：岡田誠、杉田律子、星博幸、緒方信一、亀高正男、加藤猛士、内尾優子、松田達生、小宮剛、辻森樹、尾上哲治、高嶋礼詩、山口飛鳥、坂口有人、矢部淳、内野隆之
監事：岩部良子

欠席：中澤努、狩野彰宏

事務局 澤木

*定足数(過半数：10)に対し、16の出席

報告事項

1. 全体的報告
 - ・新潟県で翡翠を「県の石」に指定するにあたって、県広報広聴課より学会へ意見聴取があり、同県を象徴するシンボリックな岩石として強く反対する理由はない旨回答した。
 - ・学会各種規則類の把握・整理・整備作業を進行中。規則の整備は着実に進めていくことが運営において重要である旨執行理事会内で改めて確認した。
2. 運営財政部会(亀高・加藤)
 - 1) 総務委員会
＜共催・後援依頼、他団体の募集、連絡等＞
 - ・2022年度日本地球化学会第69回年会(2022/9/5-9/12、於高知大学、ハイブリッド)への共催依頼があり、承諾した。
 - ・新潟大学旭町学術資料展示館「ジオパークの大放散虫展」(2022/7/20-8/28)への後援依頼があり、承諾した。
 - ・神奈川県立生命の星博物館特別展「みどころ沢山!かながわの大地」(2022/7/16-11/6)への後援依頼があり、承諾した。
 - ・日本ゼオライト学会主催「第38回ゼオライト研究発表会」(2022/12/1-12/1;於徳島郷土文化会館)への協賛依頼があり、承諾した。
 - ・地学オリンピック日本委員会より2022年度協賛団体加入の依頼があり、承諾した。
 - ・2022年度朝日賞候補者推薦依頼(8/25締切、学会締切8/5)→geo-flash, ニュース誌7月号掲載
 - ・第44回(令和4年度)沖縄研究奨励賞推薦応募(9/30締切、学会締切9/5)→geo-flash, ニュース誌7月号掲載
 - ・第63回(令和4年度)東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦(10/7締切、学会締切9/12)→geo-flash, ニュース誌掲載
 - ・石油資源開発株式会社より役員就任のご挨拶があった(代表取締役社長 藤田昌宏氏ほか)
 - ・一般社団法人日本科学機器協会より役員変更の挨拶があった(会長 長谷川壽一氏ほか)